

2019年度 第2回放送番組審議会 議事概要

1. 日時 2019年11月30日(土) 11:00~12:30
2. 場所 中山競馬場会議室
3. 審議委員 今原 照之 【元・(公社)日本装削蹄協会 会長】
有吉 正徳 【(株)朝日新聞社 記者】
石井 秀司 【元・(一財)グリーンチャンネル 理事長】
塩田 忠 【(公財)畜産近代化リース協会 理事】
白川 次郎 【フリーアナウンサー (元・ラジオ NIKKEI 社)】
外山 みどり 【学習院大学 文学部 教授】
山田 隆雄 【元・日本馬匹輸送自動車(株) 専務取締役】
4. 役職員 山川雅典理事長、清水昌昭常務理事、宮本敏久常務理事、
伊藤裕理事 (兼経営企画部長)、永井龍治経営企画部担当部長、
繁縄孝弘編成制作部長
5. 主な議題 2019年6月10日~2019年11月30日の放送番組について
6. 議事内容 (「GC」: グリーンチャンネル)

2019年度第1回放送番組審議会以降の取組み (報告)

GC: 2019年度第1回放送番組審議会(6月9日開催)でいただいたご指摘について、
グリーンチャンネルでは、引き続き、以下のことに取り組んでいます。

- ① 海外競馬中継については、国内での馬券発売の有無に関わらず、放送番組の拡充に取り組んでいます。JRAが馬券発売を実施するレースでは、予想展望あるいは回顧などの関連番組も放送しています。
- ② 現場のホースマンに光を当てた放送番組の制作を推進しています。一例として、新規に、現役ジョッキーのライフスタイルにスポットを当てた番組 (Yo!Jockey) の制作を試みました。同番組では、普段見ることのできない、彼らのプライベートな一面をも楽しんでいただける内容といたしました。
- ③ 中継番組のゲスト解説者として、現場経験のある専門家 (引退調教師など) を起用することを推進しています。

- ④ 番宣の効果的な活用を推進しています。
- ⑤ 「グリーンチャンネル放送番組の編集の基準」を遵守し、各制作会社の演出については、番組の目的や内容にふさわしいものであるか十分な注意を払うよう努めています。

委員： 了解しました。

2019年6月10日～2019年11月30日の放送番組について（審議）

【中央競馬・地方競馬・海外競馬の中継番組について】

委員： 海外競馬中継番組が充実してきた一方で、中央競馬・地方競馬の中継について、逆にもの足りなく感じる場合があります。レース中の通過順位などは、海外競馬でなされる様に、馬名と馬番号を常時表示しても良いのではないのでしょうか。

委員： その点については難しい部分もありますね。映像に音声を乗せる過程で、何をどこまで求めるかで変わると思います。最近の中央競馬は出走頭数が揃っていることが多く、馬名だけで実況しようとするとう無理が生じます。その意味では、すでに馬番号は有効に活用されていると思います。また、ファンの方々が一番見てほしいのは「馬が走っている姿」のはずです。通過順位は数字の組み合わせに過ぎず、せっかくのレースがサイコロを振るのと変わらない印象になるのは避けたいとの意見もあります。画面も少々うるさい感じになりますし。

委員： せめてレース前半の先頭集団だけでも馬名を表示できないのでしょうか。

委員： そこは競馬の特徴と言うべきかも知れませんが、勝馬が先頭集団から出るとは限りませんよね。実況者の視点では、ほとんどのレースで後方待機の馬にこそ注意を払わなければなりませんし、そこがレースの面白い所です。なので、レース前半で馬名を常時表示する意味はあまりないかもしれません。

委員： たしかに競馬とはそういうものですね。技術的には自動表示システムというものがあると聞いていますが、海外の企業がパテントを持っていて簡単には利用できない様ですね。

GC： それはゼッケンに発信機を入れる方式の物だと思いますが、日本の場合は海外の競馬とは前検量のやり方が異なりますので、発信機のセッティング管理の面で導入が難しいと聞いております。その代り、海外と比べて日本の競馬では、帽色の定義がしっかりしていることから、そもそも馬名を表示しなくても、レース中の馬番号の認識がしやすいという特長があります。

委員： 全てのレースでなくても構わないので、GIレースくらいは海外競馬と同じ様な見ごたえのある表示で楽しみたいと思ったのですが、簡単ではないのですね。

委員： 可能性について研究をしていただくということで良いのではないのでしょうか。

委員： それで良いでしょう。

GC： 承知しました。

委員： パドック中継で解説者が推奨馬を5頭あげる場面がありますよね、その時、往々にして映像と音声は調和していないことがあります。推奨馬と全然関係無い馬が映っていたりするのは違和感がありますが、あれはどうにかなりませんか。

GC： パドックに中継に限らず、全レース中継でも、JRAがITVで使用する映像素材を活用しているので、そういう場面が出てくる可能性があることはGCでも認識しています。

委員： JRAのITVは各馬の公平性を優先した映像づくりをしていますよね。GCの解説者の印だけを重要視した映像にするわけにもいかないのでは仕方ないですね。しかし、パドックの映像に限れば、JRAも馬体はせめて横側から撮ってほしいものです。競馬場によっては角度や障害物によって馬が見にくい場合もありますし。

GC： JRAもそういった要望にお応えするために、マルチスクリーン方式や、自動追尾システムを導入した映像づくりを研究してくれている様です。

委員： JRAの映像素材を中心にGC独自の素材を割り込み的に使う方法はあるのではないのでしょうか。

GC： 可能性としてはありえます。

委員： いずれにしても、JRAとの調整が必要な部分でしょうし、なかなか簡単にはいかないということは良くわかりました。

委員： 現場にGC独自素材の拠点が無いということが、今更ながら、もどかしく感じますね。

GC： 海外中継の場合は、主催者からいただく映像だけではパドックでの出走馬紹介等で困ることがあるので、GCから現地にスタッフを派遣して独自映像を撮り、番組制作に活用しています。

委員： 海外競馬中継については隔世の感があります。ジャパンカップの施行によって日本でも海外の競馬が話題性を持つようになったといえそうなのかもしれませんが、今や、海外競馬そのものが話題となっており、GCが海外中継に力を入れてくれていることに対する競馬ファンの期待感は非常に大きいと言えるでしょう。

GC： 来週(12月8日)にはJRAが馬券発売を発表した香港国際競走の中継を行います。一部のレースが中央競馬全レース中継の時間帯と重なるため、JRAと協議の上、平常ではパドック中継に特化させているGch2を、特別に、香港国際競走の生中継に割り振ります。これは初めての試みです。

委員： JRAが馬券を発売する海外レースをみると、国内独自オッズ方式とは言っても、現地のオッズとさほど変わらないことに気づきます。これは、日本の競馬ファンがGCの海外競馬中継や関連番組をかなりしっかり見て参考にして証な

のではないかと思います。

委員： 馬券発売が無いレースについても、馬券以外の要素、競馬文化的な視点で視聴されている様に思います。GC が海外競馬中継を通じて、社会的にも良い影響を与えていると言えるでしょう。

GC： GC では来年度、『ALL IN LINE～世界の競馬』で扱う番組数を現在の 14 から 17 に増やす予定です。この番組は JRA の振興事業として、馬券発売の無い海外レースの中継や回顧を主な対象に制作しています。来年度のテーマとしては、「世界のダービー」にスポットを当てたいと考えています。

委員： 近年は、JRA の馬券発売や日本の視聴者への配慮から、各国の競馬の発走時刻が日本時間を考慮して変更されることもあるのですから驚きです。これは本当にすごいことですよ。

【レギュラー番組について】

委員： 月曜馬劇場の『徹底リサーチ！平成競走馬進化論』は個人的に興味深いテーマでした。今後さらに内容を掘り下げることができるとし、広がり期待できる番組だと思います。

GC： JRA からも専門家として、競走馬総合研究所の研究者に出演してもらいました。

委員： 同じく、『Yo! Jockey』で騎手の私生活に着目したのは良い視点でした。近年の競馬ファンの傾向について、私は「“ライトでヘビーなファン”が増えている」と考えています。この番組はそういう層をしっかりとキャッチできたのではないかと思います。同様の視点で、将来的には調教師にスポットを当てた番組を制作することも GC なら可能なのではないかと思います。難易度は高いかもしれませんが。

GC： まずは、『Yo! Jockey』の続編制作を着実に進めていきたいと考えています。

委員： 『草野仁の Gate J.プラス』のさだまさしさんの回ですが、さだまさしさんがそんなに昔から競馬をお好きだったことを初めて知りました。いろいろな才能をお持ちの方であることは存じあげていましたが、競馬との意外な関わりを知ることができたのはこの番組のおかげです。

GC： 視聴者の皆様に楽しんでいただければ何よりです。

【特別番組について】

委員： セリ中継などはどうしても単調になりますが、一般の視聴者はどれだけ見てくれるのでしょうか。

委員： やはり、関係者向けの番組としての位置づけでしょうね。

GC： セリの主催者からは制作費をいただいております。GCとしては、公益性のある番組であると認識して放送しています。

【その他の番組】

委員： 『がんばる畜産 3』は、今年度から、制作会社に新たに1社が参入した結果、一部のコンテンツにタレントさんが起用され、バラエティー要素も加わって番組全体が明るくなりました。ただ、放送されている時間帯が朝ということもあり、個人のライフスタイルの中では視聴できる時間帯が限られてくるので、同じ時間帯がいつも似た内容にならないよう、バックナンバーのローテーションには、もう一工夫が必要だと感じました。

委員： この番組はJRAの特振金で中央畜産会がパッケージを制作しているのですね。GCはこの事業の公益性に鑑みて、番組編成枠の提供でこの事業に協力しているのでしたね。

GC： その通りです。

【指定番組について】

① 『僕はカナダで騎手になる 3』

委員： 出演者の福元大輔はJRAのジョッキーになる夢は叶わなかったものの、「ジョッキーになりたい。」というキーワードただ1つで、自らカナダに乗り込んでその道を切り開いたのですから、これはたいへんなことです。木村和士にしても同様に彼の後を追ったわけです。

JRAのジョッキーにはなれなかったけれども、「ジョッキーになるという夢をあきらめきれずにいる」者たちにとっては、彼ら二人の活躍はまさに福音に値することだと思えます。その意味で、この二人の存在はもちろん、GCがそこに光を当てた功績は大きいと思えます。たしか、この2人は、ともにジョッキーデビューの出場経験者でもありましたよね。

そこで、彼ら2人がその道を創っていった軌跡がもう少し詳細に紹介されたならば、「アプローチ方法」そのものを切り開く、すごい作品になるに違いありません。そうすれば、このシリーズはますます厚みを増すことでしょう。

GC： この番組はシリーズ3作目になりましたが、着眼点をあらためてご評価いただいたことに感謝します。

② 『Yo!Jockey』 #1 松岡正海ジョッキー

委員： 松岡ジョッキーについては、インタビューの受け答えに見応えがあり、たいへんに中身が濃かったと思います。逆に、プライベートな部分（音楽活動）をどう評価したら良いのか、正直、驚きと戸惑いを感じました。

委員： 制作者の狙いも、まさにそこにあったのだと思いますよ。ジョッキーにも人それぞれいろいろな側面があることでしょう。松岡正海ジョッキーの場合、彼は「騎手を仕事とっていない」のだそうです。ジョッキーという仕事が好きすぎて、常にそのことばかり考えてしまう。趣味を仕事にした人に共通するジレンマですが、行き詰まると逃げ場が無くなりやすい。彼にとってそれを防ぐ手段の一つが音楽だったのではないのでしょうか。私はこの番組を見て、逆に、行き詰ってしまった時の「人間・松岡正海」をもっと知りたいと思いました。

委員： もしも民放等でこの手の番組を制作したならば、5分程度のコーナーになることでしょう。ところが GC はこのテーマに初めて正面から向き合い、しっかり30分番組にしてくれました。これこそが GC にしかできないことでしょうね。

委員： 出演するジョッキーの人选にファンからの要望を取り入れるといった発想は無かったのでしょうか。作り方としては難しいかも知れませんが。

GC： シリーズの開始に当たり、意識的に、若手ジョッキーあるいは初めて重賞勝ちした様なクラスのジョッキーから出演交渉を進めました。来年もこのシリーズは継続する予定です。14人程度の予定ですが、今後の人选は今のところ未定です。若手から人选するとは限りません。

『Yo!Jockey』の副次的な効果として、「現場の取材がやりやすくなっている」ということをご報告させていただきます。トレセン関係者が多数視聴してくださるおかげで、番組を通じて、厩舎の方々が GC の制作スタッフに、気軽に声をかけてくれる状況が生まれているからです。

GC は、本日の審議会にいただいた様々なご意見・ご指摘をしっかり受け止め、今後の番組制作の参考とさせていただきます。本日はありがとうございました。